

SUBARU（スバル）はレガシイ、インプレッサなどを生産する矢島工場（群馬県太田市）の塗装工程で、ヒートポンプを軸にした新システムを導入し、大幅な省エネルギーを実現した。自動車生産のエネルギー使用の大部分を占める塗装工程の省エネは、東京電力エナジーパートナー（EPC）子会社の日本フアシリティ・ソリユーション（JFS、東京都品川区）との信頼関係で実現した。

矢島工場には二つの塗装工場があり、その一つを更新することになり、省エネの計画が立ち上がった。JFSにヒートポンプなどの

スバル

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦



ヒートポンプ軸に新システム



導入と、その後の運用管理を委託するエネルギーサービスを利用することにした。基本料金を定期的

新塗装工場 4割省エネ

金を支払う形式で、初期費用を抑えられる利点がある。塗装工場では蒸気ボイラ方式を……高温水を供給できるヒートポンプの登場が導入の決め手となった

採用していた。ヒートポンプの省エネ性には注目していたが、取り出せる温水が45〜50度のため、利用をためらっていた。塗装の前処理工程である洗浄、脱脂には高温水が必要になるためだ。60〜65度Cの温水を取り出せるヒートポンプが登場したため、導入を決めた。矢島工場のエネルギー使用量のうち、二つの塗装工場で約6割を占める。新塗装工場が2018年3月に稼働を同時供給するという

「企業データ」スバル矢島工場 ▽所在地 ▽群馬県太田市庄屋町1の1、0276・48・2701 ▽主要生産品 ▽自動車 ▽年間エネルギー使用量（18年度） ▽5万4063キロボール ▽年間CO2排出量（同） ▽10万3878ト